

4.3. 複合交信攪乱剤の処理方法と成分残存量

福島県果樹試験場病理昆虫部・平成11年度試験研究成績書

1 部門名 果樹－モモ・ナシ－病虫害防除

04－02－23000000, 04－03－23000000

2 担当者 荒川昭弘・岡崎一博・阿部憲義

3 要 旨

複合交信攪乱剤のディスペンサーをまとめて取り付けした場合、あるいは処理本数を減らした場合の成分の揮散に及ぼす影響をディスペンサー内の有効成分の残存量の測定値から考察した。

コンフューザーPを用いて現地モモほ場で試験を行った。まず、処理方法については1カ所あたり5あるいは10本取り付けの区を設け、それぞれ処理面積を約10a、3反復とした。また、処理本数についてはいずれの区も10aあたり50本となるように調整した。処理は通常のとおり5月11日に行い、150日後まで30日ごとに各試験地から5本ずつディスペンサーを新しいものと取り替えて回収し、成分の残存量を測定した。

ディスペンサー内の4成分とも、取り付け箇所数を減らした場合に残存量が多かった。このことは、ディスペンサーをまとめて取り付けすることで近辺のフェロモン濃度が高い水準にあり、その影響で成分の揮発量が減少したものと推察された。

また、処理本数を減らした場合には成分残存量がいずれも通常の処理に比較して少なく、とくにナシヒメシロクイに対応する成分では20日早く効果切れが確認された。

今回の試験は取り付け方法の一例であるが、通常のとおり取り付けを行わない場合には園内の有効成分濃度に影響を与えることが確認された。